

FORTE PRESS

横浜市泉区民文化センター テアトルフォンテ 月間スケジュール

フォンテ・プレス

2020.09

vol.83

monthly publication



10月10日(土)はタンゴコンサートです。
ご出演のバンドネオン奏者、池田達則さんにタンゴのあれこれを伺いました。
池田さん撮影のお写真と共にご紹介します。

◆ アルゼンチンタンゴとは？

日本の真裏にあるアルゼンチン、ブエノスアイレスの港町のボカと言う地区で生まれた音楽がタンゴです。様々な人種の移民者の男性たちが酒場で戯れていたのが始まりで、やがて娼婦を相手に踊るようになり官能的な男女の踊りになっていき、男性が女性を誘う社交場の踊りとなりました。



ブエノスアイレスの中心街にあるオベリスコ

主に男性が女性にフラれるというテーマが多いタンゴですが、その音楽はハバネラやカンドンベなど様々な音楽のエッセンスが混ざり少しずつ変化して出来上がっていき、タンゴのマエストロ達によって工夫され今の形になっていきました。

ブエノスアイレスは日本の真裏の南半球にあるので時差は12時間、季節は日本が夏なら向こうは冬と真逆になります。

そんな遠くの国で生まれたタンゴですが、日本でも愛好家やタンゴダンサーなどが多くいます。また、普段タンゴを聴かない人でも、ラ・クンパルシータという曲はテレビのCMなどで耳にしているかもしれません。

ラ・クンパルシータは数多くあるタンゴの楽曲の中でもっとも有名な曲と言われ、世界中のどこかで必ず流れていると言われるほどの曲です。

このタンゴの中のタンゴといわれる曲は、実はアルゼンチンで生まれた曲ではないのです。隣の国のウルグアイの当時学生だったヘラルド・エルナン・マツ・ロドリゲスが作曲したものです。



彼が簡単にメロディだけ書いたものを、キャバレーを経営する父の知り合いのミュージシャンがコードなどを付けて形にし、後にタンゴの巨匠ロベルト・フィルポによりアレンジが加えられ、さらにそのあとにエンリケ・マローニとパスクアル・コントゥルシによって歌詞が付けられ大ヒットしました。

◆ バンドネオンという楽器について

バンドネオンはドイツのハインリッヒ・バンドが1847年に考案し、オルガンの代用として演奏されていました。アコーディオンと同じ蛇腹楽器の一種で、鍵盤がなく、左右ともにボタンだけで構成されています。最初は44個のボタンしかなかったのですが、1920年代からは71個に定着したとされています。特徴はピアノのように音階の配列が順番ではなく、不規則に並んでおり、蛇腹を引っ張った時と押し込んだ時とでその配列が不規則に入れ替わるのが特徴です。その難解な構造から「悪魔の楽器」と言われています。元々タンゴにはバンドネオンは無く、フルートやギターなどから始まり、バイオリン、ベース、ピアノで演奏されていました。後に労働者の移民によってヨーロッパから持ち込まれたのが始まりだと言われています。現在ではタンゴの演奏には欠かせない花形楽器となっています。

◆ ブエノスアイレス

アルゼンチンと言えばサッカーが有名ですが、

首都ブエノスアイレスを中心に南北に伸びた広大な土地にはパンパという大草原が広がっています。そこには人口よりも多い牛達が多く放牧されていて、牛肉はアルゼンチン国民の主食になっています。

当時の開拓者たちが12頭程の牛を連れてきたのですが、原住民に村を襲撃された時に牛達が逃げて行ってしまい、その牛達が繁殖してしまっただけです。

他にもワインの産地としても知られています。そしてタンゴ発祥の地ボカ地区の港町にあるカミニート通りは観光地としても有名です。



カミニート通り

画家のキンセラ・マルティンによってデザインされパステルカラーに彩られた町には非日常を感じます。

アルゼンチンタンゴコンサート

～バンドネオンで奏でる情熱と哀愁～

10月10日(土) 14:00開演(13:00開場)

チケット発売中!